

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森		
所在地	島根県邑智郡川本町大字川下1319-15 (電話) 0855-72-3555		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年11月27日

## 【情報提供票より】(H20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	11.88 人

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( ) 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関


協力医療機関名	済生会江津病院、公立邑智病院、加藤病院、かわもと診療所、原田歯科医院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設時から「地域の中での暮らし」を意識して、毎日の散歩や地域の行事や活動参加など、戸外へ積極的に出かけることを継続している。ミニデイや子育て支援センター、小中学校やボランティアとの交流は、乳幼児から高齢者まで幅広く、自治会との防災体制も年々緻密になっている。運営理念「尊厳と安心のある暮らし」を掲げ、それが言葉だけににならないよう、利用者の「やりたい」「行ってみたい」の意思を大切にし、職員同士はもとより利用者や家族が何でも言える関係づくりや、日々の活動・会話から学び続ける姿勢を持ち続けている。研修会だけでなく、現場で感じた疑問をその場で調べて身につける「ちょこっと学習」の習慣づけなど職員育成に力を入れている。地域での信頼も高く、グループホームの一つの在り方を示している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を受け、「同業者との交流」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」など更に充実させ、改善計画シートを使い取り組みの経過を記録している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価前に運営推進会議メンバーにホームを見学してもらい、利用者と一緒にすごしてもらい感想を聞き参考にしている。評価項目のねらいを抜粋した資料を参考に経験等項目を分担し、全員で話し合っている。気づきも多く、話し合いによりすでに改善した項目もある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会、地域包括、ボランティア、家族、利用者などの参加で2ヶ月に1回開催している。年度初めには理念やホームの方針を伝えている。利用者の暮らしぶりや設備を知ってもらうため1時間ぐらい一緒にお茶などで過ごしてもらう機会を設け感想や意見を聞いている。防災については自治会との協力体制があり、必要時に議題にあげ話し合っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に家族の意見ノートを置いていたが最近記載が少ないことから自己評価で話し合い、意見メモ用紙を作り、来訪時に部屋で書いてもらい意見箱に入れてもらうような方法を始めた。家族の来訪時には勤務職員が近況を伝え、「担当者がいなくてわからない」ということがないように徹底させている。年2回の家族会では、家族だけで話し合う時間も作っている。温泉旅行や祭りのバザーなど家族の意見を聞きながら一緒に行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や町の活動、催しに利用者に参加している。盆踊りや運動会だけでなくミニデイや子育て支援センター、ひだまりサロンにも参加し子供から高齢者まで幅広い世代と交流している。地域の人に相談しながら進め、励まされることも多い。自治会への還元の良いもあり来月、近くの公園で「ふくろうの森inみしま*フェスタ」を開催し、演芸や模擬店、家族による手作りバザーなどを予定している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳と安心のある暮らし」という大きな理念に、「すてきな笑顔・心地よい言葉・温かい心で対応」「体が動く・心が動く・そんな楽しい時間を共に」「地域の中でその人らしい暮らしを継続」「サービスの質は職員の質で」とテーマを掲げている。町や自治会の活動や催しに積極的に参加するなど地域での実践もすすめている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理日誌や目に触れる場所に理念は書かれているが「尊厳」という言葉に慣れっこにならないように」と考える機会を持ち、運営推進会議でも理念や取り組みを紹介している。理念の実践には職員の育成、質の向上が重要と考え管理者がリーダーシップをとっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の途中で立ち話をしたり、野菜や花を貰ったりする親しい関係があり盆踊りや運動会にも参加している。子ども110番の家、小中学生のボランティアや職場体験受入れ、ミニデイや子育て支援センター、ひだまりサロンなど幅広い世代と交流している。地域の人に相談しながら進め、励まされることも多い。地域への還元の想いもあり来月、近くの公園で「ふくろうの森inみしま*フェスタ」を開催し、演芸や模擬店、家族による手作りバザーなど予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は改善計画シートを使い、改善経過も記録している。自己評価は事前に運営推進会議メンバーに見学してもらったり、評価項目解説資料を参考に勤務経験等で項目を分担し全員で話し合っている。見直しを積極的に行い、すでに改善した項目もある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、町、地域包括、ボランティア、家族、利用者などの参加で2ヶ月に1回開催している。年度初めには理念やホームの方針を伝えている。利用者の暮らしぶりや設備を知ってもらうため1時間位一緒にお茶などで過ごす機会を設け、感想や意見を聞いている。会議とは別にメンバーから在宅で困っている人の介護相談などもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は役場へ折々に出向き、ホームの現状を報告したり相談している。地域包括支援センターと連携し入居者の在宅復帰を実現した事例もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族向けの「ハートだより」に担当者からのコメントや利用者の直筆や絵を添えたり、ナイスショットの写真を同封したりしている。家族の来訪時には職員が近況を伝え、「担当者がいなくてわからない」ということがないように徹底させている。金銭出納についても毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	温泉旅行や祭りのバザーなど家族と相談しながら一緒に行っている。玄関に家族の意見ノートを置いていたが最近記載が少ないことから自己評価で話し合い、意見メモ用紙を作り面会カードと一緒に部屋で書いてもらい意見箱に入れてもらうような方法を始めた。年2回の家族会では、家族だけで話し合う時間も作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は1名あったが情報提供や教育を行い習得状況を把握しながら変則シフトなど配慮している。2ユニットあるが日中の行き来や一緒の活動など多く、利用者全員、職員全員が馴染みの関係となるような工夫をしている。又、職員がグループホームケアの魅力を感じ、向上心を持ち、よい仕事ができるような組織づくりに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念で「サービスの質は職員の質により保証します」とし、職員育成に重点をおいている。能力、経験、スキルに応じて積極的に研修派遣したり、報告会や報告書で共有している。現場で疑問に感じたときすぐに本を開いたり身につける必要性、知る喜びなど「ちょこっと学習」を習慣づけようとしている。夜間専門職員は研修の機会がないので個別にケア方法を伝えている。	○	これまでのケアの積み重ねを、ケアマニュアルとして体系化し、職員が共有していくことも望まれる。個人単位の研修計画にも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しまね小規模ケア連絡会に加入し、研修や調査活動など勉強、交流の機会をもち、全国シンポジウムでは大会スタッフも兼ねて5名参加し事例発表もしている。他の事業所を見学したり記録についての情報を得るなどの交流もある。地域ケア連絡会に参加し情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に納得して入居してもらいたいという方針があり、気軽に訪問して雰囲気を知ってもらうようにしている。入居後、空き家となった自宅への想いが残る利用者があり、家族の協力を得、自治会や近隣にも事情を説明して行ったり来たりを繰り返すことで納得された事例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩とし接しており、一緒に楽しんだり、手伝ってもらったりしている。利用者同士の気遣いや労わりから職員へアドバイスされることもある。利用者主体の支援は何かを考え、共に過ごせる関係を築いている。近隣から珍しい野菜をもらったときなど、その料理法を利用者から教わることが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から得ることも多いが、呟きや表情なども見逃さないようにし、スマイルスケールで午前、午後の表情を記録し「本人の気持ち、本音」を大切にしている。本人はどう考え思ふかを職員間で話し合ったり、センター方式を利用して家族から得た情報を参考にするなど、本人にふさわしい暮らし方を模索している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理日誌の他に個人記録、食事・水分・排泄等身体状況の記録など整備され、日、週、月毎の経過が把握しやすい記録様式を工夫し、小さな変化や本人の思いを介護計画に反映させている。家族には来訪時に説明し、希望を聞いている。担当医からのアドバイスなども得て参考にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった時には家族や担当医と相談して変更をしている。定期的には介護計画の期間にあわせ見直しをしている。カンファレンスをした場合は個人記録のカンファレンス欄に記録し、計画の見直し時の参考にしている。ケア方法など小さな変更は申し送りや伝えてはいるが、周知徹底できていないことがある。	○	カンファレンスでケア経過や変更を話し合っているが、「サービス担当者会議録」として、必要な情報を記録し、計画のモニタリング、実践経過の把握、見直しに活用できるような工夫を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。管理者、計画作成担当者は看護師有資格者であり、在宅酸素、インシュリンの管理も行っている。介護予防指定と受診送迎・付き添いなどの体制がある。利用者個々の希望を大切に、また家族の状況にあわせて墓参りや故郷訪問など柔軟に対応している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人家族の希望で継続できるようにしている。入居後に協力医に変る場合は情報提供により適切な医療が継続できるようにしている。受診付き添いは原則家族だが、状況により代行し、その料金を明示している。邑智郡では医療機関と福祉関係者による「地域医療連携」があり協力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり、「豊かなラストステージ指針について」家族に説明し、状態の変化があれば本人、家族、医師と話し合い柔軟に対応することになっている。病院でターミナル期とされた利用者の希望を受けホーム生活を再開し、家族と共に支え現在もホームでの生活を継続させている。在宅酸素使用者もあるが、なるべくホームでの生活が継続できるよう最善を尽くしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を大切にプライバシーを守っている。特に排泄誘導や介助時の言葉遣い、プライバシーに気をつけている。気になる言動があれば職員で話し合ったり、個別に指導している。トイレは2室に1ヶ所だがなるべく同性で使用できるようにしている。浴室の脱衣場のすりガラスは透けて見えないよう布を貼っている。個人情報の保護にも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や価値観を大切にしている。介護度の高い人が増え、車椅子使用者、食事に時間のかかる人もあるが一人ひとりのペースを大切にし僅かな時間でも活動の機会を取り入れるようにしている。重度者が利用者の集まるホールでも休めるよう1階はベッドを設置、2階は畳コーナーにクッション等を置いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2ユニット別々の献立で食事を作り、職員も介助や見守りをしながら一緒に食べている。おやつも手作りが多い。調理や食器洗い、茶碗拭きなどできる力に応じて参加してもらっている。近隣や家族から野菜をもらうことも多く、地域に伝わる料理法など教わりながら楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日でも入浴できる体制があり、希望に応じている。気の合う利用者同士での入浴もある。車椅子の人も多いが2名介助で浴槽に入ってもらっている。「座・シャワー」が設置されており、シャワーマッサージや疾患により浴槽へ入れない人も利用できる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事だけでなく行事の準備など手馴れた仕事や役割がある。ボランティアの来訪や地域の催しなど外部とのふれあいも多い。職員が柿の実った枝を持ち込むと利用者同士で盛り上がり包丁を持って来て皮を剥くなど自主的な活動が見られ職員は見守っていた。職員は利用者が喜ばれそうな物を持ち込んだり用意し、からだと心が動く楽しい時間を演出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の人も車椅子で食後にちょっと庭へ出るなど戸外に出る機会を大切にしている。車椅子でも土に触れて楽しめるよう箱型菜園を作り苺の収穫を楽しんだ。散歩、ドライブ、毎日の食材の買い物にも一緒に出かけ、化粧品など必要な買い物もいつでもできる。車椅子のまま乗降できる福祉車両もあり気軽に外出できるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、裏口などすべて開放しており、玄関前のベンチ、庭など自由に過ごせる。近隣や地域の理解があり、散歩中やホーム周りで過ごしている時も声をかけてもらうなど見守り協力もある。昼夜とも安全確認しているが、夜間は警備会社による安全管理システムも導入している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設時から近隣、消防署、警察、消防団に防災について相談をし、年2回の避難訓練、毎月のサイレンテストなど協力を得ている。自治会の防災訓練にも参加し、備蓄米の提供など役割も持っている。防火管理者講習も順次受けている。火災への対策が主であったので水害や地震対策を考える予定にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量、水分量は経過が把握しやすい記録の工夫をしている。摂取量が少なくなった人には食べやすいもの、好まれる物を用意したり、入れ歯を調整してもらったりしている。必要に応じ医師や栄養士に相談し、嚥下困難については言語聴覚士(ST)のアドバイスを得ている。トロミやミキサー食も工夫している。</p>		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホール、食堂は利用者が落ち着いて過ごせるようにソファや机の位置を工夫している。1階はホールの一角にベッドを、2階はたたみコーナーに布団を敷き、重度の人も利用者や職員の姿が見え、声が聞こえるところで横になって過ごせるようにしている。ホーム長室を利用者用に開放し、一人で静かに音楽を聴いたり趣味などで過ごせる書斎風の空間にしており、男性利用者が好んで使っている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの家具や趣味の品、家族の写真などを置いている。居心地よいと感じられるような配置を利用者と相談して工夫している。全室ベッドだが、窓際にたたみを敷いたり、本人が思いついたとき掃除ができるようさりげなく箒をおいたり個々に工夫をしている。居室で過ごすことが多い人には明るい部屋を提供している。</p>		